

幌別小学校だより

幌別小学校教育目標

- すすんで学びよく考える子
- 互いに助けあい思いやる子
- 丈夫な体でたくましく生きぬく子

(昭和62年3月改訂)

登別市立幌別小学校

学校だより 第 12 号

令和8年2月25日

「ありがとう」の大切さ ～感謝の気持ちを持たせるためには～

校長 松田 周一

2月の全校朝会では「6年生ありがとうプロジェクト」に関連して「感謝」について話をしました。

感謝の気持ちをもつことは、子どもたちの成長において非常に重要です。心の豊かさや社会性の発達にプラスの影響を与えます。例えば人間関係を深めたり、思いやりの心を育てたり、自己肯定感を高めたり・・・また、感謝の言葉を大切にすると子どもが多く育つことで、地域全体がより温かく、協力的な雰囲気になるはずで、では、そのような子どもを育てるために、我々大人はどうしたらよいか、学校で気を付けていることも含め、以下に記させていただきます。

まず、「小さな『ありがとう』を見逃さない」ことです。ご家庭でのお手伝いや、脱いだ靴を揃えたりといった当たり前と思われがちな行動に対しても、「助かったよ」「ありがとう」と言葉をかけることを大切にしてみませんか。子どもたちは、身近な大人からの感謝を経験することで、「自分は誰かの役に立っている」という自己有用感を抱き、それが他者への優しさへとつながっていくはずで、

我々大人が「感謝のモデル」になることも大切です。子どもは大人の姿をよく見ています。私たち教職員も、子どもたちの前で互いに感謝し合う姿を大切にしていきます。ご家庭でも、家族だけでなく近所の方へも、何気ない「ありがとう」を伝えてみていただけないでしょうか。そんな大人の温かな言葉遣いが、子どもたちの豊かな心を育む何よりのお手本となります。

また、感謝は「してもらう」だけでなく、その背景にある優しさに「気付く」力でもあります。全校朝会では子どもたちに、「当たりの日常」を支える人々の話をしました。食事が用意されていること、洗濯された服があること。また、通学路で見守ってくださる地域の方々、安全に送り届けてくれるバスやスクールタクシーの運転手さん。こうした普段意識しにくい「誰かの支え」に気付くことが、豊かな感謝の心へとつながります。

日々の忙しさの中でつい見過ごしてしまいがちなことですが、「おかげさまで、今日も一日過ごせたね」と、その尊さを親子で一緒に見つめ直していけたらと思います。学校と家庭が手を取り合い、温かな感性を育てていきましょう。

「ありがとう」という言葉は、言った方も言われた方も心が温くなる魔法の言葉です。学校・家庭・地域が感謝の心でつながり、子どもたちが愛されている実感をもちながら成長していけるよう、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

幌別小学校ホームページがリニューアルします！

3月2日(月)より、幌別小学校のHPがリニューアルをします。様々な情報を一元化できるように努めました。今後必要に応じて改良していきますので、一度ご覧になってみてください。

《新しいURL》

<https://sites.google.com/noboribetsu.ed.jp/horobetsu-syo/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

